

学科コード	N2
-------	----

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	各クラス担任		
科目名	総合演習 2	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	鴫田 直子		
科目名	動物病理学	必修・選択	選択		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	病理学の基礎を学び、病理検査の必要性について理解する。 細胞レベルでの疾病による変化を理解する。				
◆概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物病理の基礎 病理解剖・病理組織学的検査の基礎と意義 《第1、2、3章》				
第2週					
第3週	細胞や組織に生じる変化 変性・壊死・アポトーシス・過形成と肥大・低形成と萎縮 《第4、5章》				
第4週					
第5週					
第6週	循環障害 充血とうっ血・凝固と線溶・血栓と塞栓・虚血と梗塞・水腫・ショック・DIC 《第6章》				
第7週					
第8週					
第9週	炎症 炎症のメカニズムと5徴 《第7、8章》				
第10週					
第11週					
第12週	腫瘍 腫瘍の定義と分類 《第9章》				
第13週					
第14週					
第15週	先天異常 遺伝子異常・染色体異常・発生異常・奇形 《第10章》				
第16週					
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では図などの板書が多い為、イラストを描きやすいノートを用意する事。 ・形態機能学を理解している事を前提として講義を進めるため復習しておく事。 ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
動物看護コアテキスト3 (ファームプレス)					

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席による評価 15%
- ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%
- ・ 課題発表（中間・期末） 70%

6. その他

講師: 獣医師として産業動物病院にて診療、授精、予防管理業務、および小動物病院で実務経験あり。臨床獣医師として従事している経験から獣医学および臨床現場にて動物看護師が必要となる知識を指導する。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	河野 敬	
科目名	動物薬理学 1		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬が効果を表す機序について理解する。 ・動物看護師の薬の取り扱いについて、法律、投薬法、投薬指導法などを理解する。 ・各臓器に作用する薬について理解する。 				
◆概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療に対する実際の使用法を学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物薬理学の基礎 獣医臨床における薬物治療の概念				
第2週	動物薬理学の基礎 薬理作用とその発現機構と生体内での動態の理解				
第3週	動物薬理学の基礎 薬物間の相互作用および副作用と中毒について				
第4週	動物看護師による薬物の取り扱い 薬物の適切な管理方法を理解する。 投薬量の計算ができる				
第5週	動物看護師による薬物の取り扱い 各種投薬法を理解し、自宅での飼い主による投薬について指導できる				
第6週	神経系に作用する薬物 全身麻酔薬・局所麻酔薬について理解する				
第7週	神経系に作用する薬物 鎮痛薬について理解する。運動神経系に作用する薬物について理解する				
第8週	神経系に作用する薬物 鎮静薬・抗けいれん薬について理解する 中間試験				
第9週	神経系に作用する薬物 問題行動の治療に用いられる薬物について理解する				
第10週	呼吸器系に作用する薬物 呼吸興奮薬について理解する				
第11週	呼吸器系に作用する薬物 鎮咳薬について理解する				
第12週	呼吸器系に作用する薬物 気管支拡張薬について理解する				
第13週	循環器・泌尿器に作用する薬物 血管拡張薬(降圧剤)について理解する。				
第14週	循環器・泌尿器に作用する薬物 心不全治療薬(強心薬)について理解する。				
第15週	循環器・泌尿器に作用する薬物 抗不整脈薬について理解する。				
第16週	循環器・泌尿器に作用する薬物 利尿薬について理解する。				
第17週	前期評価試験				
3. 履修上の注意					

・計算をすることがあるので電卓を準備する事。

4. 使用教材(テキスト等)

テキスト、パワーポイント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・ 出席による評価 15%
- ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・ 課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

30年以上になる獣医師としての臨床経験から得られた現場で実際に薬を使用する上での注意点まで含めて指導したい。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	本橋
科目名	動物繁殖学	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室
		年次	2年次
		前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	犬猫の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学び、正常な分娩の前兆、生理的变化と異常分娩における助産、新生子管理や、雌雄の生殖器の疾患への理解とその看護の方法学ぶことによって知識だけではなく、看護師が自分の役割を理解した行動がとれるよう実際の現場を意識した学習を行っていく		
◆概要	繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生児管理、遺伝学の基礎知識を学び習得する		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	生殖器の形態と機能		
第2週	雌雄の生殖器(構造・機能・生理)		
第3週	主要な性ホルモン 名称及び役割と働き(産生部位・標的器官)		
第4週	性成熟と生殖周期 月齢・妊娠期間・季節周期・完全生殖周期・不完全生殖周期		
第5週	性成熟と生殖周期 性周期と膣細胞スミアの関係性 顕微鏡による膣スミアの観察		
第6週	雌犬の繁殖 発情徴候、排卵・受胎可能な交配時期		
第7週	雌犬の繁殖 妊娠(着床・胎盤)・分娩(徴候・経過)・出産(準備・母体の看護・産子の看護)		
第8週	雌犬の繁殖 性ホルモン濃度の推移・妊娠期の異常・助産		
第9週	中間試験		
第10週	雌犬の繁殖 帝王切開・新生児の管理・母犬の管理		
第11週	雌猫の繁殖 発情の特徴・排卵と交配・妊娠期間・偽妊娠		
第12週	雌猫の繁殖 性ホルモン濃度の推移・分娩徴候・新生子の管理		
第13週	雄犬猫の繁殖 精液とは・交尾姿勢・性ホルモン濃度の推移		
第14週	犬猫の繁殖の人的支配 人工授精・発情誘起		

第15週	犬猫の繁殖の人的支配 日照時間の調整・雌性避妊(不妊手術・発情抑制)・雄性避妊(去勢手術)
第16週	遺伝学の基礎と遺伝性疾患 遺伝様式(顕性、潜性、伴性遺伝)
第17週	遺伝学の基礎と遺伝性疾患 遺伝疾患、発生異常について
第18週	期末試験
3. 履修上の注意	
<p>教科書だけではなく、イラストや写真、その他資料を使いながら行っていく。 生殖器の構造をはじめとして覚えることが多数あるため事後学習を怠らないよう務める。 実習棟での授業もあるため指示があった場合きちんと準備をすること 実習を行う際にはアクセサリ類は必ず外すこと。髪型や化粧等が適切ではない場合出席を認めない。</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>動物看護コアテキスト4巻 補助プリント</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況 10% ・ 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20% ・ 中間・期末試験 70% 	
6. その他	
<p>講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。 講義がメインとなるが、検査や助産など看護師も立ち会う場面での立ち振る舞いなども指導していく。</p>	

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	小山	
科目名	動物人間動物関係学		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・510教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から理解する。また、介護福祉学科との合同授業により、他業界との関わり、他業種への理解を通し、新たな視点と多角的に物事を見る力を養う				
◆概要	人間と動物の関わり、日本と欧米の動物の関わりとの相違、その背景や現状。使役動物の歴史と福祉。伴侶動物の現状と関わりや相互の影響について。介護福祉学科との合同授業により、実践的なCAPP活動や現代の人と動物の社会問題について学び、グループワークにより事例検討を行う				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	人間と動物の関わり 動物の飼育・利用の歴史				
第2週	人間と動物の関わり 文学・芸術における動物との関係の歴史				
第3週	人間と動物の関わり 欧米と日本での動物の関わりとの相違				
第4週	動物介在介入:AAI 動物介在活動				
第5週	動物介在介入:AAI 動物介在活動				
第6週	動物介在介入:AAI 動物介在療法				
第7週	動物介在介入:AAI 動物介在療法				
第8週	中間試験				
第9週	動物介在介入:AAI 動物介在教育				
第10週	動物介在介入:AAI 動物介在教育				
第11週	使役動物の歴史と福祉について				
第12週	使役動物の歴史と福祉について				
第13週	動物と関わることによる人と動物双方における効果				
第14週	動物と関わることによる人と動物双方における効果				

第15週	高齢者と動物の関係性
第16週	子供と動物の関係性
第17週	期末試験
3. 履修上の注意	
ペットライフケア学科の2年生と合同授業	
4. 使用教材(テキスト等)	
動物看護コアテキスト1巻(ファームプレス) その他	
5. 単位認定評価方法	
評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10% をもって評価とする。	
6. その他	
動物看護師として学んだ、動物に対する福祉や愛護の精神を活かし、人と動物の関わりについて、また福祉的な考え方や接し方について授業を行う	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	本橋
科目名	動物臨床看護学総論	必修・選択(注記)	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性を重視した動物看護過程の基本的な考え方を習得することで、実際のチーム医療である動物看護業務に活用できるようになる。また、エビデンスの作成を可能にすることで、動物看護業界の質保証に貢献出来るようになる。		
◆概要	動物看護過程の重要性、概要、展開、チーム医療における役割、動物看護記録作成の手順について学ぶ。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	動物看護過程の概要とその重要性		
第2週	動物看護過程の概要とその重要性		
第3週	動物看護過程の概要と展開		
第4週	動物看護過程の概要と展開		
第5週	動物看護過程の概要と展開		
第6週	動物看護過程の概要と展開		
第7週	動物看護過程の概要と展開		
第8週	中間試験		
第9週	看護記録の作成		
第10週	看護記録の作成		
第11週	事例検討を用いた看護過程の作成		
第12週	事例検討を用いた看護過程の作成		
第13週	事例検討を用いた看護過程の作成		
第14週	事例検討を用いた看護過程の作成		
第15週	事例検討を用いた看護過程の作成		
第16週	ターミナルケア QOLを考える		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
教科書だけではなくその他資料を使いながら行っていく グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること			
4. 使用教材(テキスト等)			

5. 単位認定評価方法

評価基準：絶対評価

- ・ 出席状況 10%
- ・ 授業態度(課題の提出・授業への取り組み) 20%
- ・ 中間・期末試験 70%

6. その他

講師：動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物看護師になるにあたって学び得た知識と実務経験も踏まえ、動物看護過程の意義の解説と展開、作成の指導を行う

学科 <専攻>	動物看護師学科		担当者	浅野 智由 奥原 淳	
科目名	動物臨床看護学各論2		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の原因・症状・治療の選択、また予防について理解する。 ・各疾病の看護ポイントを理解する。 				
◆概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ同陸奥にどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	代表的な呼吸器系疾患 □イヌとネコの呼吸器感染症・気管の疾患・肺の疾患・鼻の疾患など				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週	代表的な泌尿器系疾患 □腎臓の疾患・膀胱の疾患・その他排尿に影響を及ぼす疾患など				
第7週					
第8週	代表的な内分泌系疾患 □甲状腺の疾患・副腎の疾患・上皮小体の疾患・糖尿病など				
第9週					
第10週					
第11週	代表的な生殖器系疾患 雌雄生殖器の疾患・乳腺の疾患など				
第12週					
第13週	代表的な皮膚疾患 □感染性疾患・アレルギー性疾患・その他の皮膚疾患など				
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の沿って講義を進めるが、写真教材などを使用するためipadを用意する事。 ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
テキスト: 動物看護コアテキスト6巻					
5. 単位認定評価方法					

評価基準:絶対評価

- ・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%
- ・ 課題発表（中間・期末） 70%

6. その他

講師:動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	本橋/得地	
科目名	動物医療コミュニケーションⅡ		必修・選択(注記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○

1. 授業の到達目的と概要	
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティ精神を理解し、飼い主からの信頼を得るための身だしなみの重要性を自覚する。 ・言葉遣いと話し方・表情・立ち位置・立ち振る舞いなど、接客時の基本身につけコミュニケーション能力を上げるための基本的な接遇トレーニングができるようになる。 ・看護動物の安全・衛生に配慮した対応ができるよう、受付時のカウンターを挟んだ高頻度業務を実技で展開し、グループ運営、段取り、プレゼンテーションの意識を高め、スタッフコミュニケーションを想定した能力を身に付ける。 ・飼い主様に対して問診を行い動物看護師としての対応を身につけ、実際のクライアントエデュケーションへつなげていく ・実習犬を用い、臨床現場により近い形での各種検査を実施し、臨床検査の応用に繋げる。
◆概要	<p>Big Paw Clubの会員犬の飼い主様への問診、犬の健康チェックを行う。 また、必要であれば各種検査の実施と手技の練習も含む。 飼い主様への報告書の作成、カルテ記入等の実践。 飼主様への口頭での報告も必要に応じて行う。</p>

2. 授業内容 (週単位で記入)	
第1週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第2週	クライアントエデュケーション (適切飼育方法・健康管理等、必要情報の提供)
第3週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第4週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第5週	クライアントエデュケーション (予防の必要性 予防接種/フィラリア予防/ノミ・ダニ予防)
第6週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第7週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第8週	クライアントエデュケーション (病気の適切な予防法 歯科予防/避妊・去勢手術)
第9週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第10週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第11週	グリーフケア (安楽死の意義と飼い主様への説明についての理解)
第12週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第13週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第14週	グリーフケア (ペトロスの定義と飼い主の心情に基づいた対処法)
第15週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第16週	クライアントお迎え 問診と報告 バイタル&健康チェック 各種検査実施 報告書作成
第17週	最終確認試験

<p>3. 履修上の注意</p> <p>ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 身体検査における専門用語等は理解しておくこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>動物看護コアテキスト5.6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者</p> <p>実際に現場で起こりうる状況などを想定した接遇トレーニングを行う。また、問診の取り方のポイント(細かい情報の聞き出し方など)の指導含め、現場に近い雰囲気で行えるよう取り組みをする。また、お預かりしている動物に対して迅速な身体検査や観察の方法など動物の取り扱い方も細かく指導を入れていく。</p>

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	本橋/上條		
科目名	動物内科看護学実習 I-3	必修・選択(注記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学および1年次の動物内科看護学実習 I で学んだ知識の実践力を習得する。				
◆概要	飼育環境整備、保定法、身体検査、バイタルチェック、採血、採尿、注射、留置針設置、輸液、輸血などについての実践 輸液、輸血等における技術の実践				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	実習に参加する動物の健康状態把握 フィジカルアセスメント				
第2週					
第3週	輸液管理の基礎知識				
第4週	輸液の適応 必要性				
第5週	器材準備				
第6週	静脈内留置				
第7週	輸液量計算				
第8週	調剤の基礎知識 薬剤の取り扱いと管理				
第9週	錠剤				
第10週	散剤				
第11週	液剤				
第12週	分包紙				
第13週	投薬法				
第14週	輸血				
第15週	輸血の適応				
第16週	必要性				
第17週	器材準備				
第18週	事前検査				
第19週	注射針・シリンジ等取扱 確認				
第20週	輸液準備確認				
第21週	調剤の知識確認				
第22週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。
5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5、6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 15%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 35%
- ・課題発表(中間・期末) 50%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師が習得しておくべき犬猫の身体検査、輸液療法、調剤の手技等について指導する。実例や経験をもとに、輸液ラインの準備や静脈内留置の取り方などを実際の現場でどのように行っていたかなど体験談を織り交ぜるなどしてイメージしやすいような指導を行う。また、食事の与え方なども実際に行った成功例を説明するなどして指導を行っていく。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	本橋/得地	
科目名	動物臨床検査学実習 I-3		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一年次に習得した手技に応用力をつけて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習し、また検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を基準と比べ、異常値の場合には速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータの整理・管理として、飼い主に提示できるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得できるようにする。				
◆概要	血液検査を主体とし、さらに眼、耳、皮膚等の検査における手技等も練習する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	血液検査	塗抹	血小板	赤血球系	
第2週	血液検査	塗抹	血小板	赤血球系	
第3週	血液検査	塗抹	白血球系	左方移動	
第4週	血液検査	塗抹	白血球系		
第5週	血液検査	塗抹	白血球系	百分比	
第6週	血液検査	塗抹	白血球系		
第7週	血液検査	塗抹	異常な血球		
第8週	血液検査	塗抹	血小板	赤血球系	白血球系 まとめ
第9週	血液検査	血液化学スクリーニング検査			
第10週	血液検査	血液化学スクリーニング検査			
第11週	血液検査	血液化学スクリーニング検査			
第12週	血液検査	血液化学スクリーニング検査			
第13週	血液検査	凝固系			
第14週	血液検査	凝固系	クロスマッチ試験		
第15週	血液検査	全過程			
第16週	血液検査	全過程 補足			
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					
<p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>					
4. 使用教材(テキスト等)					

動物看護コアテキスト6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- ・中間・期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	福澤 美雪		
科目名	動物外科看護学1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	無菌的処置の重要性が理解できる。タオル・ドレープ類の準備、滅菌法、手術室の器具類の管理など、術前準備について理解し実践できる。 麻酔処置時における動物看護師の役割について理解できる。 術中補助および術後の管理、動物のモニタリングについて理解する。 疼痛管理、退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。 エマージェンシーの原因、病態、動物看護師の役割について理解する。				
◆概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物外科看護技術総論	無菌的処置の重要性	滅菌・殺菌・消毒・洗浄		
第2週	手術器具および器械	術前準備	滅菌法		
第3週	代表的な手術の種類	手術時の動物のポジショニング	術野の消毒		
第4週	麻酔学 麻酔とは 麻酔の基本概念				
第5週					
第6週	安全な麻酔のために必要な要素	麻酔・鎮痛の処置に関わる看護師の役割	術前検査		
第7週					
第8週	麻酔リスクの評価	ASA分類	麻酔前投与		
第9週	中間試験				
第10週	麻酔導入	吸入麻酔薬	気管内挿管準備	導入時のリスク	
第11週					
第12週	術中補助				
第13週	麻酔看視項目 直接補助と間接補助				
第14週	手術器具 歯科器具				
第15週	縫合針と縫合糸				
第16週					

第17週	最終確認試験
3. 履修上の注意 科目としての履修内容がとても多い上に、動物病院実習に向けても非常に必要な知識となるため、復習を必ず行うこと。	
4. 使用教材(テキスト等) 動物看護コアテキスト5, 6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・試験成績による評価(中間・期末) 70%	
6. その他 講師: 動物看護師として動物病院で従事した経験から、動物病院における外科手術において動物看護師が必要となる知識・技術を指導する。	

学科コード	N2
-------	----

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	福澤 美雪 上條 紗泰雅	
科目名	外科動物看護実習1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	周術期管理における動物看護師の役割の理解と知識・手技を習得する。				
◆概要	術前の準備; 看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解。術前器具・器材の取り扱いと管理・日頃の点検 術中の補助; 麻酔下の看護動物のモニタリングと麻酔記録。正常と異常の状態の理解 術後の管理; 術後の疼痛に関する評価・ペインスケール 看護動物の継続的な観察と看護の実践				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	手術前の動物に必要な管理と関わり				
第2週	手術チームの準備 無菌操作 滅菌・消毒				
第3週	手術室の環境管理 手術設備・器具の準備と管理				
第4週	術者に必要な管理 オペガウン・グローブ装着				
第5週					
第6週					
第7週	手術器具の準備と基礎知識 外科器具および気管内挿管準備				
第8週	中間試験				
第9週					
第10週	危険物管理 医療廃棄				
第11週	術前・術中の動物管理と看護 術前に必要な処置と対応				
第12週	術前検査 術前食止め 飲水・排泄量管理 麻酔維持期				
第13週	動物のモニタリング 生体モニター				
第14週					
第15週	術中の補助 直接補助・間接補助				
第16週					
第17週	最終確認試験				

3. 履修上の注意

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員に指示に従うこと。
学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
生体を扱場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶

- ・出席による評価 15%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 35%
- ・課題発表(中間・期末) 50%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、現場をイメージした手術設備や手術器具の準備を行えるよう指導する。麻酔やモニタリングも実際にモニターを見ながら状態の把握を行うなどして現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	北村/本橋/得地/山崎		
科目名	動物飼育実習2	必修・選択(注 記)	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予 定)	18コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	飼主様への問診、担当犬の健康チェック、預り中の適切な環境管理、飼い主様へのアドバイス、カルテの作成といった、動物病院で必要になるコミュニケーション能力、技術の習得を目標とする。				
◆概要	グルーミング実習との連携が必要になる。 犬の状態把握と必要に応じた検査等の実施。 カルテの記載法の実践。 飼主様とのコミュニケーション法の実践。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第2週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第3週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第4週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第5週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第6週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第7週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第8週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第9週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第10週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第11週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第12週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第13週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第14週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第15週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第16週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
第17週	クライアントお迎え	問診	バイタル&健康チェック	検査	カルテ記載
3. 履修上の注意					
<p>ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。 5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。 グルーミング実習との連携をとり、犬の状態把握に務め、犬に与えるストレスを最小限とする。</p>					

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5.6巻

動物実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- ・中間・期末試験70%

6. その他

講師: トリマーおよびしつけインストラクターとしての実務経験者

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

問診の取り方の(細かい情報の聞き出し方など)指導を含めより現場に近い雰囲気で行えるよう取り組みをする。また、お預かりしている動物に対して迅速な身体検査や観察の方法など動物の取り扱い方も細かく指導を入れていく。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	北村/本橋/上條	
科目名	グルーミング実習応用		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	皮膚や健康状態を把握して対処ができ、犬の負担を軽減するための作業時間の短縮、綺麗に、丁寧に行うことを目標とする。				
◆概要	皮膚状態に合わせたシャンプー、リンス、保湿剤の選択が行えるように。 また、担当犬に併せた対応が臨機応変にできること。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	グルーミング実習				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
3. 履修上の注意					

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。
5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。
グルーミング実習との連携をとり、犬の状態把握に務め、犬に与えるストレスを最小限とする。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5.6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%
- ・中間・期末試験70%

6. その他

講師: トリマーおよびしつけインストラクターとしての実務経験者

動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院で看護師が診察台の上でも行うような、基本的なケア(爪切り・足裏バリカン・耳掃除・ブラッシング)の仕方を学生が飼い主様などに指導できるまでのレベルになるよう指導する。基礎に引き続き、薬浴の効果や方法など現場で行うことに、より近づけた指導をする。

学科コード	N2
-------	----

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	加藤 博史		
科目名	動物リハビリテーション学実習	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	幼齢動物、高齢動物を含んだ全年齢の動物に対する、リハビリテーションの意義と正しい実施方法および評価方法を理解する。 代替医療を含む東洋医学アプローチ法について理解を深める。				
◆概要	様々なリハビリテーションの原理や方法、意義について学び、治療機器等の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物リハビリテーションの意義および概要について理解する。				
第2週	動物リハビリテーションに必要な解剖の基礎および骨格連携について理解する。				
第3週	動物リハビリテーションに必要な解剖の基礎および、前肢後肢の連携について理解する。				
第4週	創傷治療の基本と運動器障害からの回復について理解する。				
第5週	廃用と不動化および再稼働に対する骨格組織の変化について理解する。				
第6週	病態の評価と身体計測の方法および記録方法について理解する。				
第7週	歩様検査について、検査方法および評価方法について理解する。				
第8週	整形外科的検査について、検査方法および評価方法について理解する。				
第9週	神経学的検査について、検査方法および評価方法について理解する。				
第10週	理学療法(徒手療法)について理解する。①				
第11週	理学療法(徒手療法)について理解する。②				
第12週	陸上運動療法の方法と治療効果について理解する。				
第13週	水中運動療法の方法と治療効果について理解する。				
第14週	物理療法について、使用器具の特性および治療効果の特徴を理解する。				
第15週	東洋医学の概要について理解する。 東洋医学における代表的な概念について理解を深める。				

第16週	東洋医学における、診断および治療法について理解を深める。 (東洋医学的診断法、経絡、経穴、漢方治療等)
第17週	最終確認試験
3. 履修上の注意	
配付資料を中心に講義を行います。単位認定試験は配付資料の内容より出題。 単項目での講義が多いが、前後の授業の関連性が高いため、復習が必要となります。	
4. 使用教材(テキスト等)	
動物看護コアテキスト6巻 配付資料	
5. 単位認定評価方法	
評価基準: 絶対評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15% ・課題発表(中間・期末) 70% 	
6. その他	
講師:放射線技師(ヒト医療における)および動物病院での動物看護師(リハビリ指導)およびペット東洋医学アドバイザーとしての実務経験を生かし、動物病院でのリハビリテーションの知識・手技について指導する。	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物看護総合実習1		必修・選択(注記)	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	学外	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築く上で必要な技術や能力を習得する。</p>				
◆概要	<p>動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	学外実習オリエンテーション				
第2週	学外実習				
第3週	学外実習				
第4週	学外実習				
第5週	学外実習				
第6週	学外実習				
第7週	学外実習				
第8週	学外実習				
第9週	学外実習				
第10週	学外実習				
第11週	学外実習				
第12週	学外実習				
第13週	学外実習				
第14週	学外実習				
第15週	学外実習				
第16週	学外実習				
第17週	期末発表・報告				
3. 履修上の注意					

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
看護動物の状態・状況への配慮が必要
常に動物の状態に注意し、管理する
5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護実習テキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題(報告書等)提出状況と学修成果50% 実習先からの評定書30%
をもって評価する

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験

実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	本橋 知果		
科目名	動物業界研究1	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	研究テーマを自ら選出し、自身の課題の追求や動物業界に貢献し得る研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。				
◆概要	各自研究テーマの決定、調査・探求・実験(製作の場合もある)、データ作成、論文の作成、パワーポイント作成。完成後発表し、評価する。もしくは、各種資格取得を目指す。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	研究テーマ調査				
第2週	研究テーマ調査				
第3週	研究テーマ調査				
第4週	研究テーマ決定				
第5週	各自調査				
第6週	各自調査				
第7週	各自調査				
第8週	各自調査・研究・資格試験学習				
第9週	各自調査・研究・資格試験学習				
第10週	各自調査・研究・資格試験学習				
第11週	各自調査・研究・資格試験学習				
第12週	各自調査・研究・資格試験学習				
第13週	各自調査・研究・資格試験学習				
第14週	各自調査・研究・資格試験学習				
第15週	各自調査・研究・資格試験学習				

第16週	各自調査・研究・資格試験学習
第17週	中間発表・報告
3. 履修上の注意	
内容、進度により各自対応は異なる場合がある。	
4. 使用教材(テキスト等)	
各自参考図書等 その他	
5. 単位認定評価方法	
評価基準:絶対評価 出欠席数10%、授業態度(積極性等)10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20% をもって評価とする。	
6. その他	
動物業界での就業経験を活かして指導を行う	

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科	担当者	河野 敬		
科目名	動物薬理学 2	必修・選択	選択		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬が効果を表す機序について理解する。 ・動物看護師の薬の取り扱いについて、法律、投薬法、投薬指導法などを理解する。 ・各臓器に作用する薬について理解する。 				
◆概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療に対する実際の使用法を学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	消化器に作用する薬物 制吐剤について理解する。制酸薬、胃粘膜保護薬について理解する。				
第2週	消化器に作用する薬物 消化管運動促進薬について理解する。				
第3週	消化器に作用する薬物 止瀉薬、瀉下薬について理解する。				
第4週	消化器に作用する薬物 肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する。膵酵素製剤について理解する。				
第5週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 代表的なオータコイドについて理解する。				
第6週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 糖尿病治療薬について理解する。				
第7週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 甲状腺ホルモン製剤について理解する。				
第8週	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 ステロイドホルモン製剤について理解する。 中間試験				
第9週	血液免疫系に作用する薬物 抗貧血薬について理解する。				
第10週	血液免疫系に作用する薬物 血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬(止血剤)について理解する。				
第11週	血液免疫系に作用する薬物 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)について理解する。				
第12週	血液免疫系に作用する薬物 免疫抑制薬について理解する。				
第13週	化学療法薬 抗菌薬について理解する。(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)				
第14週	化学療法薬 抗真菌薬について理解する。				
第15週	化学療法薬 駆虫薬について理解する。殺虫薬について理解する。				
第16週	化学療法薬 抗がん剤について理解する。				
第17週	後期評価試験				
3. 履修上の注意					
・計算をすることがあるので電卓を準備する事。					
4. 使用教材(テキスト等)					
テキスト、パワーポイント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					

- ・ 出席による評価 15%
- ・ 授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%
- ・ 課題発表（中間・期末） 70%

6. その他

30年以上になる獣医師としての臨床経験から得られた現場で実際に薬を使用する上での注意点まで含めて指導したい。

学科コード	N2
-------	----

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	浅野 智由 奥原 淳		
科目名	動物臨床看護学各論3	必修・選択	選択		
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の原因・症状・治療の選択、また予防について理解する。 ・各疾病の看護ポイントを理解する。 				
◆概要	<p>様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物にどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	代表的な眼疾患 眼疾患の検査法・眼球の疾患・副眼器の疾患など				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週	造血器・免疫介在性疾患 白血球に影響を及ぼす疾患・赤血球に影響を及ぼす疾患・貧血を起こす疾患 免疫系の疾患など				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	緊急疾患 交通事故・熱傷・感電・熱中症・中毒など				
第10週					
第11週					
第12週					
第13週	がん疾患と担がん動物について				
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	最終評価試験				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の沿って講義を進めるが、写真教材などを使用するためipadを用意する事。 ・事後学習として授業の復習を必ず行う事。 					
4. 使用教材(テキスト等)					
テキスト: 動物看護コアテキスト6巻					

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 15%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師: 動物病院(小動物診療)における獣医師としての実務経験を生かし、小動物臨床で動物看護師が必要となる様々な疾病に関する知識、様々な病態における看護について指導する。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	小山 真央	
科目名	野生動物学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	野生動物の特性と人との関わりを理解し、多角的な視点で野生動物との関係性・問題点をとらえることができるようになる。長野県の動物病院では保護された野生動物の診療を行う可能性もあるため、動物看護師として野生動物救護の考え方も心得ておく。				
◆概要	野生動物の種類、外来生物、鳥獣害、保全、それらに関わる人間の生活への影響と課題。動物病院における野生動物の保護、治療に関する考え方について。また日常接する伴侶動物でなく、本来野生動物と分類される動物が展示されている動物園の役割について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	野生動物の定義と野生動物の種類				
第2週	野生動物の種類と特徴				
第3週	野生動物の種類と特徴				
第4週	人間生活との距離・関わり方によって生じる問題				
第5週	人間生活との距離・関わり方によって生じる問題				
第6週	野生動物の病気と事故				
第7週	野生動物の病気と事故				
第8週	中間試験				
第9週	外来種による生態系と人間生活への影響				
第10週	外来種による生態系と人間生活への影響				
第11週	野生動物の救護体制				
第12週	野生動物の救護体制 野生動物リハビリテーター制度				
第13週	課題制作・発表				
第14週	課題制作・発表				

第15週	日本の野生動物と人の課題
第16週	日本の野生動物と人の課題
第17週	期末試験
3. 履修上の注意 学外演習の導入により、一部予定変更する可能性があります	
4. 使用教材(テキスト等) パワーポイント資料 その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準: 相対評価 出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う	
6. その他 動物病院勤務時に来院した、保護野生動物への対応経験、大学の履修専攻科目(動物との共生)、里山づくりのボランティア活動経験を通し得た知識等を用いて野生動物との共生、問題点とその解決方法について授業を行う	

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	福澤 美雪		
科目名	動物外科看護学2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	麻酔処置時における動物看護師の役割について理解できる。 術中補助および術後管理、動物のモニタリングについて理解する。 疼痛管理、ペインスケールについて理解できる。 退院時の注意点、飼い主への説明事項について理解する。 エマージェンシーの原因、病態、動物看護師の役割について理解する。				
◆概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。 救急救命時における病態、処置、動物看護師の役割について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	術後管理 麻酔覚醒と覚醒後の動物のモニタリング				
第2週					
第3週					
第4週	創傷管理 ドレーン 包帯法				
第5週					
第6週	褥瘡予防 退院時の注意点				
第7週					
第8週	中間試験				
第9週	エマージェンシー 原因と病態				
第10週					
第11週					
第12週	BLS ALS				
第13週					
第14週	CPR CPCR				
第15週					
第16週					
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					

科目としての履修内容がとて多い上に、動物病院実習に向けても非常に必要な知識となるため、復習を必ず行うこと。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト5, 6巻
動物看護実習テキスト
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%
- ・試験成績による評価(中間・期末) 55%

6. その他

講師: 動物看護師として動物病院で従事した経験から、動物病院における外科手術や救急疾患において動物看護師が必要となる知識・技術を指導する。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	福澤/上條	
科目名	外科動物看護実習2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標 周術期管理における動物看護師の役割の理解と知識・手技を習得する。					
◆概要 術前の準備;看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解。術前器具・器材の取り扱いと管理・日頃の点検 術中の補助;麻酔下の看護動物のモニタリングと麻酔記録。正常と異常の状態の理解 術後の管理;術後の疼痛に関する評価・ペインスケール。看護動物の継続的な観察と看護の実践					
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	術中麻酔に関する知識 麻酔モニタリング				
第2週	生体モニター 麻酔記録				
第3週	導入～覚醒				
第4週	術後管理				
第5週					
第6週					
第7週	衛生管理 創傷管理 包帯法				
第8週					
第9週					
第10週	救急救命法 エマージェンシーの原因・病態				
第11週	BLS ALS				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員に指示に従うこと。
学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。
ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
生体を扱場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト6巻 動物看護実習テキスト 補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶

- ・出席による評価 15%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 35%
- ・課題発表(中間・期末) 50%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験を生かし、実例や経験をもとに、麻酔や術中モニタリングについて指導する。また、救急救命時における動物看護師の役割についても現場に近づけた環境で指導が行えるように努める。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科	担当者	上條/得地		
科目名	動物形態機能学実習/ 動物臨床看護学実習3	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	・病気に対する治療や乳井で受ける動物の身体的・精神的な影響に対して看護師がどのように寄り添い支えることができるか考え現場でも実践できるようになること。また、治療や入院に対して動物だけでなく飼い主様への治療などへの理解を深めるための適切なサポートや説明ができるようスキルを身に付ける。				
◆概要	事例などを用いて入院動物に対してどのような看護提供できるかを実際に考える機会を持たせる。個人、グループワークなどを行い意見交換をすることで様々な目線からの看護を考える授業展開にしていく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	痛みのある動物に対する看護 ・痛みとは				
第2週	・疾患や手術による疼痛の評価(ペインスケール)				
第3週	・鎮痛薬の選択				
第4週	・その他痛みへのケア(マッサージ・ストレッチ等)				
第5週	老齢動物に対する看護 ・老犬介護				
第6週	・認知症への看護				
第7週					
第8週	最終評価試験				
第9週					
第10週	動けない(得たきり)の動物に対する看護 ・食事、排泄のサポート				
第11週	・褥瘡管理(湿潤療法・ドレッシング材について)				
第12週	・包帯法				
第13週	呼吸異常のある動物に対する看護 その他症状に合わせた看護				
第14週					
第15週	在宅医療 終末期医療				
第16週	エンジェルケア				

第17週	最終評価試験
<p>3. 履修上の注意</p> <p>取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員の指示に従うこと。 学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。 ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。 アクセサリー類は必ず外すこと。 髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。 挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。 生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。</p>	
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>動物看護コアテキスト5.6巻 動物看護実習テキスト 基礎動物看護学 補助プリント</p>	
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70% 	
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院における動物看護師としての実務経験者 動物臨床看護学実習では、現場での経験を活かし、体験談などを織り交ぜた授業を展開していき、実際に看護した症例などをもとに入院動物に対するアプローチの方法を指導していく。</p>	

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	本橋/得地	
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ		必修・選択(注 記)	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予 定)	18コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>検査の意義を理解し、一人で責任を持った検査結果を出せるよう、繰り返し実習し、また検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を基準と比べ、異常値の場合には速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータの整理・管理として、飼い主に提示できるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得できるようにする。</p>				
◆概要	血液検査を主体とし、さらに眼、耳、皮膚等の検査における手技等も練習する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	血液検査 全過程復習				
第2週	超音波検査	概論	検査準備	ポジショニング	操作 取り扱い法
第3週	眼科検査	眼圧	シルマー	フルオレセイン染色	
第4週	外耳道検査	耳鏡	耳垢検査		
第5週	神経学的検査				
第6週	皮膚検査	病変の種類と検査法			
	皮膚搔把	スタンプ法	被毛	ウツド灯	真菌培養
第7週	皮膚検査	概論 病変の種類と検査法			
	皮膚搔把	スタンプ法	被毛	ウツド灯	真菌培養
第8週	皮膚検査	概論 病変の種類と検査法			
	皮膚搔把	スタンプ法	被毛	ウツド灯	真菌培養
第9週	細胞診	膿スメア	ニードルバイオプシー	コア生検	シャムシディ パンチ生検
第10週	細胞診	膿スメア	ニードルバイオプシー	コア生検	シャムシディ パンチ生検
第11週	心電図検査				
第12週	心電図検査				
第13週	X線検査				
第14週	臨床検査総復習				
第15週	臨床検査総復習				
第16週	臨床検査総復習				
第17週	最終確認試験				
3. 履修上の注意					

取り扱う器具によっては操作法などを厳守しないと危険なものもあるため、教員間で指導方針を確認し合い、授業に臨む。

学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具等を扱うようにする。

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。

アクセサリ類は必ず外すこと。

髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。

挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。

生体を扱う場合には、その状態・状況への配慮が必要。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト

動物看護実習テキスト

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20%

・中間・期末試験70%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での臨床検査の経験を活かし、教科書には載っていないような手技に関するコツや知識、体験談などを織り交ぜる。また、現場に出て重要なのは、技術はもちろんのこと迅速性も求められるためそういった手技の手本となるよう授業を行う。

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	福澤	
科目名	動物飼育実習3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>1. 一年次よりも技術的にレベルの高い正しいハンドリングが行えることを目指す。基本的なトレーニング法を理解した上で、犬による性格の違いを見極め、個体個体に適したトレーニング法を考察する。動物が人間社会で適応し、飼い主と楽しく快適に暮らすために、安心感を与え良い関係を築くトレーニングを行うとともに、問題行動についても学び飼い主への教育に活かす。甘咬み、トイレトレーニング、クレートトレーニングなど、飼い主から相談の多い事項に関しては、トレーナーとしてアドバイスができるレベル習得を目指す。</p> <p>2. 飼育動物の管理については、各自が動物看護師レベルでの気づき、手入れとケアを実施できるレベルに到達する。</p>				
◆概要	<p>犬と猫の行動様式をきちんと理解した上でのトレーニングの実践 動物がどのように学習するのか、『学習の起こる仕組み』を理解し問題行動予防と行動の修正について学ぶ 実際の動物病院で行う月齢別のクラスの検討</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	学習理論 しつけ・トレーニングの理論と応用				
第2週	学習理論 しつけ・トレーニングの理論と応用				
第3週	学習理論 しつけ・トレーニングの理論と応用				
第4週	問題行動概論				
第5週	問題行動概論				
第6週	問題行動概論				
第7週	問題行動各論				
第8週	問題行動各論				
第9週	問題行動各論				
第10週	問題行動各論				
第11週	問題行動各論				
第12週	院内のしつけ方教室を考える パピークラス ジュニアクラス(ベーシッククラス)他				
第13週	院内のしつけ方教室を考える パピークラス ジュニアクラス(ベーシッククラス)他				
第14週	飼い主への指導スキル				
第15週	飼い主への指導スキル				
第16週	カウンセリングスキル				
第17週	期末評価				
3. 履修上の注意					

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬、および預り犬使用に際し、常に犬の状態に注意し、管理する。
5つの自由と動物福祉の視点に立った扱いをするよう徹底する。

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護コアテキスト4巻

犬のしつけ学

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 15%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 35%
- ・試験成績(中間・期末) 50%

6. その他

講師: 動物病院で動物看護師として、またパピークラスやカウンセリングを実施した経験から、動物行動学に基づいたトレーニングについて指導する。

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物看護総合実習2		必修・選択(注記)	必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	学外	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。 獣医師・動物看護師の業務内容(役割の違い、一日の流れ)を把握する。 動物病院の施設について、概況や機能を理解できる。 動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解できる。 飼主対応や処置室等での臨床症例を見学し、可能な範囲で体験学習するなかで、円滑な人間関係を築く上で必要な技術や能力を習得する。</p>				
◆概要	<p>動物病院の概要(歴史的背景、地域特性、診療方針、職員構成等)を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師、動物看護師との連携を理解する。 学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	学外実習オリエンテーション				
第2週	学外実習				
第3週	学外実習				
第4週	学外実習				
第5週	学外実習				
第6週	学外実習				
第7週	学外実習				
第8週	学外実習				
第9週	学外実習				
第10週	学外実習				
第11週	学外実習				
第12週	学外実習				
第13週	学外実習				
第14週	学外実習				
第15週	学外実習				
第16週	学外実習				
第17週	期末発表・報告				
3. 履修上の注意					

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧等の身だしなみ等が適正でない場合、出席を認めない。
挨拶・返事等は意識してきちんと行うこと。
看護動物の状態・状況への配慮が必要
常に動物の状態に注意し、管理する
5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する

4. 使用教材(テキスト等)

動物看護実習テキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題(報告書等)提出状況と学修成果50% 実習先からの評定書30%
をもって評価とする

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験

実習受け入れの経験を活かし、実習に対する姿勢、実習態度、実習内容、成果報告等について指導する

学科コード	N2
-------	----

学科 〈専攻〉	動物看護師学科		担当者	本橋	
科目名	動物業界研究2		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	68コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	研究テーマを自ら選出し、自身の課題の追求や動物業界に貢献し得る研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。				
◆概要	各自研究テーマの決定、調査・探求・実験(製作の場合もある)、データ作成、論文の作成、パワーポイント作成。完成後発表し、評価する。もしくは、各種資格取得を目指す。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	研究テーマ調査				
第2週	研究テーマ調査				
第3週	研究テーマ調査				
第4週	研究テーマ決定				
第5週	各自調査				
第6週	各自調査				
第7週	各自調査				
第8週	各自調査・研究・資格試験学習				
第9週	各自調査・研究・資格試験学習				
第10週	各自調査・研究・資格試験学習				
第11週	各自調査・研究・資格試験学習				
第12週	各自調査・研究・資格試験学習				
第13週	各自調査・研究・資格試験学習				
第14週	各自調査・研究・資格試験学習				
第15週	各自調査・研究・資格試験学習				

第16週	各自調査・研究・資格試験学習
第17週	最終発表・報告
3. 履修上の注意 内容、進度により各自対応は異なる場合がある。	
4. 使用教材(テキスト等) 各自参考図書等 その他	
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価 出欠席数10%、授業態度(積極性等)10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20% をもって評価とする。	
6. その他 動物業界での就業経験を活かし、研究内容や研究目標達成に向けて指導を行う	

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	福澤/本橋/加藤	
科目名	動物看護師試験対策		必修・選択	選択必修	
単位数	7単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	119コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物看護師統一認定試験の合格を目標とする。また、その学習を通じて動物看護師に必要な知識を習得する。				
◆概要	過去問題、予想問題、講師作成の資料を使用し、動物看護師統一認定試験対策を行う。様々な問題を解き、解説を聴講することによって、弱点の補強を行う。学生の知識および技術の習得度により、実技部分の補講を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物看護師統一認定試験対策				
第2週	動物看護師統一認定試験対策				
第3週	動物看護師統一認定試験対策				
第4週	動物看護師統一認定試験対策				
第5週	動物看護師統一認定試験対策				
第6週	動物看護師統一認定試験対策				
第7週	動物看護師統一認定試験対策				
第8週	到達度確認テスト				
第9週	動物看護師統一認定試験対策				
第10週	動物看護師統一認定試験対策				
第11週	動物看護師統一認定試験対策				
第12週	動物看護師統一認定試験対策				
第13週	動物看護師統一認定試験対策				
第14週	動物看護師統一認定試験対策				
第15週	動物看護師統一認定試験対策				
第16週	動物看護師統一認定試験対策				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
学年末の補講期間中も試験対策を行う 問題を解いて、その後の解説の聴講が主な授業内容となる。 授業後の復習を十分に行い、弱点の補強を行うことが重要となる。					
4. 使用教材(テキスト等)					

動物看護師統一認定試験
完全対策問題集(インターズー)
完全攻略!問題&解答集(ファームプレス)
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%
- ・ 課題発表(中間・期末) 70%

6. その他

講師:動物病院における動物看護師としての実務経験を生かし、動物看護師資格の習得に向け求められる技能、知識について指導する。

学科 ＜専攻＞	動物看護師学科		担当者	福澤/本橋/上條/得地	
科目名	卒業研究		必修・選択	選択必修	
単位数	7単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	119コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	研究テーマを自ら選出し、自身の課題の追求や動物業界に貢献し得る研究を通し、業界就職に役立つ知識、技術を身につける。				
◆概要	各自研究テーマの決定、調査・探求・実験(製作の場合もある)、データ作成、論文の作成、パワーポイント作成。完成後発表し、評価する。もしくは、各種資格取得を目指す。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	各自調査・研究・資格試験学習				
第2週	各自調査・研究・資格試験学習				
第3週	各自調査・研究・資格試験学習				
第4週	各自調査・研究・資格試験学習				
第5週	各自調査・研究・資格試験学習				
第6週	各自調査・研究・資格試験学習				
第7週	各自調査・研究・資格試験学習				
第8週	各自調査・研究・資格試験学習				
第9週	各自調査・研究・資格試験学習				
第10週	論文作成等の課題提出・発表準備				
第11週	論文作成等の課題提出・発表準備				
第12週	論文作成等の課題提出・発表準備				
第13週	論文作成等の課題提出・発表準備				
第14週	論文作成等の課題提出・発表準備				
第15週	論文作成等の課題提出・発表準備				

第16週	論文作成等の課題提出・発表準備
第17週	成果発表
3. 履修上の注意 インターネット上だけの調査ではなく、現場に足を運んだり、結果を実際に自分の目で確認するなど調査方法を工夫すること。授業中は論文作成に勤しむこと。課題提出期限が設けられているため、期限は厳守すること。授業時間内で研究や論文作成が間に合わない場合、授業時間外を使って完成させなくてはならないこともある。 前期期間中に研究テーマを1人1テーマ決定しておく。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員が判断するものとする。 卒業研究に関する事前研修を火曜日の4時限目に以下3回にわたり行う。出席は必須。 第一回 5月19日(火) 第二回 6月16日(火) 第三回 7月21日(火) ※ただし日程が変更する可能性も有 研究テーマ決定締め切り:9月18日(金) 期限までに教員の認定が出ない学生は補講期間中登校し、後期授業開始までにテーマを決定する。	
4. 使用教材(テキスト等) ノートパソコン	
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価 出欠席数10%、授業態度(積極性等)10%、課題提出状況10%、研究成果50%、研究発表評価等20%をもって評価とする。	
6. その他 動物業界での就業経験を活かし、研究内容や実験方法、研究目標達成に向けて指導を行う。論文作成、研究発表の経験を活かし、論文の作成方法、パワーポイント作成	